

西播医療安全ニュース

2025年1月（第48号）発行

◆ 令和6年度 医療安全研修 テーマ：多職種実践報告会

日時：12月14日（土）13：30～16：30 場所：姫路 じばさんびる 601号室

【報告内容】

施設名	職種・氏名	報告演題
姫路医療センター	リハビリテーション科 理学療法士長 山本 誠	姫路医療センターにおける転倒転落予防対策委員会の活動
姫路赤十字病院	医療安全推進室 重症患者支援管理担当師長 今川 真理子	入院時重症患者対応メディエーターについて
姫路中央病院	薬剤部 薬剤師 竹本 かおる	薬剤簡易懸濁の可否について当院での情報共有方法
はりま姫路総合医療センター	放射線科 診療放射線技師 宮下 素純	・事例から対策取り組み ・放射線防護 ・STAT画像

転倒転落アセスメントシートの改定で看護師の負担も軽減



「初めまして」の患者家族との対話。医療メンバーと協力しながら患者・家族支援を行う



薬剤の適正使用のため、医療従事者の知識・意識の統一を行う



お互いを知って尊重しあう関係、協力しあえる関係にあることが不可欠



グループワークは笑いあり新たな発見ありと活発な意見交換ができました



4施設からの講師による実践報告会を開催し、それぞれの臨床実践に基づいた取り組みや対策、連携について発表いただきました。発表後のグループワークでは、参加者29名の方と講師も参加し、施設内で発生している事例の相談や日頃の悩みを分かち合う時間となりました。どのグループも活発な意見交換があり、幾度となく脱線し軌道修正に一苦労するくらい楽しく実りのある交流ができた研修となりました。

◆研修参加者のご意見

- ・「初めて院外の研修に参加し沢山の意見を聞くことができた」
- ・「意見交換が充実していた」
- ・「簡易懸濁の発表が非常にわかりやすかった」
- ・「重症患者の家族への意思決定支援の関りが学べた」
- ・「コミュニケーションの大切さが安全につながっていくと感じた」
- ・「他施設の発表を聞いて、自施設に足りないことが明らかになった」
- ・「メディエーターという役割は本当に大事だと思った。自施設でも取り組みたい」
- ・「転倒転落アセスメントシートを簡易できれば業務的に助かる」
- ・「放射線量について学ぶことができた」
- ・「他施設の医療安全に対する視点が良いと思った」
- ・各病院の医療安全のための様々な取り組みをされていることがよくわかった」
- ・「簡易懸濁の可否について当院でもどう対応するか困っていた内容で、とてもタイムリーな情報だった」
- ・「重症患者対応メディエーターの発表では、ACPに関しての関わり方に自分も患者対応する時には気を付けて目を向けていきたい」
- ・「組織化と横のつながりを大切にする。現場活躍のシステム化をしていきたい」 等

弁護士との事例検討会

問題患者対応、院内暴力、転倒転落対応など、医療安全管理上の問題点に対し法的立場から指導を受けながら、話し合いをしています。自施設の困難事例の解決や、他施設の実例からの学びもたくさんあります。参加ご希望の方は、事務局までご連絡ください。

第3火曜日 16時30分～18時00分 姫路商工会議所（参加無料）

発行元：兵庫県看護協会西播支部

医療安全委員会

事務局：姫路赤十字病院

たうちちえこ
田内千恵子

電話：079-294-2251

FAX：0790-32-2176

e-mail：t-tauchi@himeji.jrc.or.jp